

令和7年度

教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	42	学校名	可児工業高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域の産業教育を担う可茂地域の工業高校として 地域や企業等と連携した専門性の高い実践的な学びを通して 地域の産業発展や活性化に貢献し、地域から愛される人材の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	教育活動のあらゆる場をとおして、知・徳・体・技の調和のとれた地域社会から期待される人間性豊かな工業技術者を育成する。 (1) 基礎学力と専門の知識・技能の確実な定着 (2) 基本的生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門の知識・技能の定着に基づいた職業観・勤労観を持った生徒 ・地域社会から信頼され、新たな価値を生み出し、未来を拓く創造性あふれる生徒 ・多様な人格を尊重し、豊かな心と健やかな身体を持った生徒
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・就職や進学に対応した柔軟な選択科目や習熟度に合わせた少人数授業を展開し、タブレット端末などを活用する生徒一人ひとりに寄り添う支援の推進 ・専門的な知識や技術の習得、様々な資格取得のサポートをはじめ、インターンシップ・企業見学を通し、充実したキャリア教育・進路支援の実施 ・地域社会と連携した学校行事、活発な部活動を通して、豊かな人間性や社会性の育成
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・ものづくりに興味・関心を持ち、身につけた知識や技術を産業界で活かしたい生徒 ・高校生活に明確な目標を持ち、学習をはじめ資格取得、部活動など学校生活に意欲的に取り組み、自ら成長しようとする生徒 ・規範意識が高く、規則正しい学校生活ができる生徒
学校の抱える課題	・基礎学力の定着を念頭に、ICT機器の積極的な活用や指導法の改善を促進し、全職員が生徒理解を図りながら連携して学習指導を行っていく。 ・クラス活動や生徒会活動をとおして他との関わりを一層学び、日常の学校生活を充実させるための自己指導能力を身に付ける。 ・進路実現のための基礎学力と規範意識の定着。職業観と社会適応の育成。 ・地域のイベント（専門性を活かしたワークショップ等）への参加対象生徒が減少傾向であることと、休業日開催が大半であることにより、継続ができなくなる恐れがある。	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	・ICT機器の活用環境を整備することで積極的な活用を促進し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力および自ら学ぶ意欲や態度を育成する。 ・授業や学校行事を通して、工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門の知識・技能の定着に基づいた職業観・就労観を育成する。
	生徒指導	・あらゆる教育活動をとおして生徒一人一人を正しく理解し、情報共有と共有理解のもと発達段階に合わせた生徒支援を行う。 ・基本的生活習慣を身に付け、集団生活をしていく上で必要な規範意識と協調性を高められるよう支援を行う。
	進路指導	・将来の社会的自立に向けて生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、学校行事や外部の教育力を活用した教育活動を通して、望ましい勤労観や職業観を形成する。 ・産業界から信頼される豊かな人間性や社会性に富んだ人材を育成する。
	安全管理	・昨年度、工業部組織として立ち上げた「安全教育推進事業委員会」を機能させ、全科をあげて安全に対する意識向上を図る。 ・生徒への安全教育だけでなく、専門科教員（若年教員）への安全教育を含めたスキルアップの場を設ける。

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得	施策Ⅱ-8	・チャレンジタイムの実施 ・I C T活用環境の整備 ・I C Tを活用した授業の 実践・交流 ・姉妹校との交流活動 ・授業公開週間の実施 ・授業アンケートの実施				
	学習活動におけるI C T機器のさらなる活用	施策Ⅱ-9					
	外国の言語・文化の理解	施策Ⅱ-11					
	授業改善に向けた研修の充実	施策Ⅳ-26					
生徒指導	安定した生活を送るための基本的生活習慣の定着	施策Ⅰ-1	・遅刻、欠席者数の低減 ・信頼感ある身だしなみ ・人権及び情報モラル教育 ・合理的配慮の共通理解 ・スクール相談員、ほっと ブレイスの積極的活用 ・ヘルメット着用の推進 ・M S L、地域貢献活動				
	集団生活する上で必要な自己指導能力の充実	施策Ⅰ-3					
	生徒理解を深めるための積極的な教育相談体制の充実	施策Ⅳ-21					
	命の大切さや自己有用感を高める支援の充実	施策Ⅰ-7					
進路指導	外部講師を活用した進路ガイダンス等の充実	施策Ⅱ-14	・3年生の進路実現達成状 況 ・就職、進学活動への積極 性 ・インターンシップ実施企 業等からの評価内容 ・学校ホームページの充実 ・進路希望別模試の実施				
	主体的に進路を決定するための確かな学力の定着	施策Ⅱ-8					
	地域と連携したインターンシップ・企業見学の充実	施策Ⅱ-13					
	進路指導に関する適切な情報発信	施策Ⅳ-20					
安全管理	実習開始前の安全指導の改善	施策Ⅲ-19	・適度の緊張感と、安全意 識の継続の必要性 ・部顧問会議における安全 指導規準の共有 ・生徒の活動場所毎の体調 確認と環境チェック ・各科毎に生徒・職員への スキルアップ講座				
	専門部活動及び運動系部活動における安全意識の向上	施策Ⅳ-25					
	各種感染症及び熱中症への予防対策の継続	施策Ⅲ-18					
	産振設備の基本操作スキルの習得	施策Ⅱ-14					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和8年 月 日